

がん専門医臨床研修モデル事業

モデル事業概要

がん医療について専門的に携わる医師の不足を解決し、全国におけるがん医療水準の均てん化を推進していくことを目的に、都道府県がん診療連携拠点病院において、がん専門医(放射線療法、化学療法、手術、緩和ケア、病理診断等)を育成するための体制を構築するためのモデル事業を実施する

背景

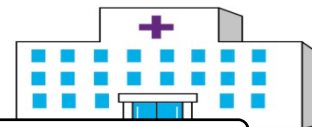
- がん医療において、放射線療法、化学療法、手術、緩和ケア及び病理診断等が適切に実施される必要があり、それらを専門に行う医師の役割が重要である。
- しかし、がん医療を専門に行う医師の不足が指摘されており、全国におけるがん医療水準の均てん化を図るためには、がん専門医の育成が強く求められている。
- 「がん対策推進基本計画」(平成19年6月閣議決定)においても、がん医療に携わる専門的な医師を育成していくことが定められている。

期待される効果

- がん専門医を育成していくための**プログラムが作成**される。
- プログラムに基づき、全国の拠点病院において、効果的かつ効率的な**がん専門医の育成が可能**になる。
- 全国において、**適切ながん医療を提供できる体制が整備**される。

事業内容(イメージ)

都道府県がん診療連携拠点病院(15か所)



平成21年度

各地域でがん医療を先導的役割を担う**都道府県がん診療連携拠点病院**において、**若手医師**(臨床研修を修了した卒業3年目程度の医師など)を対象とした、**がん専門医を育成**するためのモデルプログラムを作成

全国で15か所の拠点病院を選定し、普及に当たって多様なニーズに対応できるよう、地域や施設の特性を踏まえた**15種類のモデルプログラム**を作成

モデルプログラムの**試験的実施**

平成22年度

若手医師を対象に、全国15か所で作成されたモデルプログラムを**本格的に実施**

全国の拠点病院



作成したがん専門医育成プログラムの全国への普及

平成23年度以降

実施されたモデルプログラムを検証し、**全国のその他の拠点病院へ普及**

全国において、**適切ながん医療を提供できる体制が整備**